

宮古毎日 7. 3. 30

城辺地区

# 飼育ミツバチ大量死

## 県機関「原因は不明」

城辺地区でこのほど、飼育されているミツバチが大量死しているのが見つかった。城辺保良の養蜂家・野原肇さんによると近年、数万匹が死んでおり、今年は特に多いという。野原さんは「農薬の影響ではないか」と指摘。伝染病対策に関わる県の機関では「寒さや寄生虫などの要因も考え

10年以上前から宮古で養蜂を営んでいるという野原さん。「どんどん(被害が)ひどくなっている。1〜3月が多い。海外では使用禁止とされているネオニコチ

ミツバチが大量に死んでいるのが見つかった20日、市城辺福南(野原さん提供)



ノイド系農薬が原因ではないか」との考えを示した。

その上で「サトウキビは宮古の大事な産業。大いに発展してほしいが、ミツバチのような有益な昆虫まで殺すのは問題だ。使用する際は、もっと注意してほしい。

専門家に相談し、影響の少ない薬を使うべきだ」となどと訴えた。

ミツバチの大量死や失踪は長崎県や愛知県、長野県、茨城県、北海道など各地でも発生。要因として▽ネオニコチノイド系農薬が

主要因とされる蜂群崩壊症候群(CCD)▽温暖化による害虫被害▽蜜源の減少▽ウイルス感染▽家畜化と飼育環境のストレスなどが考えられている。

野原さんからの連絡で現場を確認した県宮古家畜保健衛生所は「数年前に世界的に大量死があったが、そ

の際も(県内での発生は)無かったと思う。寒さや寄生虫などの要因も考えられるが、はっきりしない」と述べ、農薬と大量死の因果関係については不明だとした。

宮古家畜保健衛生所にミツバチ大量死の連絡があったのは今回が初めてという。現場の状況を確認した職員によると、巣箱の中には異常が無いと聞いており、羽の縮れなど伝染病の特徴的なものは見られなかった。

同所では「養蜂家の皆さんには、周囲の農家などに『ここに巣箱がある』と周知するなど、周囲とのコミュニケーションを大事にしてほしい。今後、希望があれば検査の方法などを伝えていきたい」と述べた。